小林昴の母親です。

事故に関しては主人と同じ気持ちですが、私の言葉で今の気持ちを述べさせていただきます。

〇〇さん、昴が亡くなってから１年４か月が経とうとしています。

事故当日から今日に至るまで、あなたのいい加減な言動に私は苦しめられてきました。「４０～５０キロで前を向いて集中して運転していました」これが主人が病院で聞いた最初のあなたの言葉でした。「なぜ、４０～５０キロで走っていて、こんな命に及ぶような事故になるんだ・・・」と私には理解できませんでした。その後、昴が亡くなり私たちが、どれだけの悔しさと悲しみを味わっているか・・・〇〇さんあなたには分からないでしょう・・あなたが、あの事故の真実を明確に証言しないから、事実とは全く正反対の噂が広がったのです。私は事故からまだ日が浅い頃、何人かの地域の人から「飛び出しだからあの事故は仕方がないよ」と言われました。何が仕方がないんですか・・私は叫びたかった。でも何も言えなかった・・家に帰って泣きました。真相も知らずに加害者側に立ってものを言う人がいる事が悲しかった。

あなたは、昴が入院していた病院、警察、裁判所すべてにおいて話す内容が全く違っていました。本当に不誠実で無責任です。私は、あなたが「本当に取り返しのつかない事をしてしまった。なぜこんな事になってしまったのだろう。」と真剣に考えているとは到底思えません。

〇〇さん、あなたの罪は本当に重い、そして二度とこんな悲しい事故が起こらな

いよう一生、車を運転しないでください。法廷での口約束だけはやめてください。同じ地域で暮らす私たちにとって、これほど恐ろしいことは無いのです。

私はずっと「昴に会いたい。私の体が２つになるならば、昴のいる所に行きたい。」そう思っていました。しかし、「私の命は一つしかない。私には残された愛する夫と子どもが４人いる。だから生き抜かなければならない。昴は最後の瞬間まで、自分らしく生き切った。自分の人生を輝かせて生きたよなぁ。私も自分らしく生き抜こう。昴が教えてくれた、命の尊さ、人への思いやりを胸に抱いて･･･」そう思うようになりました。そしてようやく、昴は私たちのすぐそばで見守ってくれていると感じられるようになって来ました。

私たちが、ここまで前を向いて生きて来られたのは、私たち夫婦が潰れないように真心の励ましと真剣な思いを届けて下さった友人たちのお陰です。

〇〇さん、そして母親の〇〇さん、あなたたちの友人たちからはどんな声をかけられて来たのですか？　自分たちがいかに不利な立場にならないか・・

そんなアドバイスだけですか？そしてその事だけを考えて生活して来たのですか？「もっと被害者の悲しみに寄り添わなければならない」と言ってくれる人はいなかったのですか？

〇〇さん、あなたは放課後児童クラブの指導員ですよね？

わが子が起こした事故の真実を見ようとせず、「もう成人しているのだから謝罪

がしっかりできなくても本人の責任だ。」とあなたは言いました。

あなたは保護者に「子どもが犯罪を犯したとしても成人していたら親は関係ないのよ。」と話すのですね？

私は、同じ母親として、同じ子育てを応援する仕事をする者として、あなたの言動は許し難いです。

昴が１３歳という若さで亡くなってしまった事は本当に悔しいし悲しいです。

しかし、昴の命を無駄にしないために、被害者側も加害者側も生き方を見つめ直し、人が人の命を奪うそんな悲しい事が絶対に起こらないよう最大限の努力をしていかなければならないと思います。

刑が終われば事は解決では絶対にありません。

一生、忘れないで頂きたい。

あなたたちの生き方でもって一生、昴に償っていって頂きたい。

主人と二人、そう祈っていきます。

それが今の私の気持ちです。

平成 30 年 7 月 12 日